

早稲田大学 商学部 古典 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分（現代文1問、古漢1問）
出典	『菅笠日記』
解題	本居宣長、四十三歳の和旅行記。1772年3月5日～14日までの旅。

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
二	問一	脱文挿入 ：脱文口語訳「我はそうして生まれた身だよ」。	標準
	問二	文法 ：受験頻出「ぬ」の識別。10「ぬ」…直下に「ほど」と体言があるので「ぬ」は連体形。＝打消「ず」の連体形。	易
	問三	空欄補充 ：各語すべて重要古語。	標準
	問四	人物判定 ：文章を丁寧にたどれば迷うこともない。	易～標準
	問五	理由説明 ：傍線部12直前の「うれしき」で「喜悅」。ここまでに書かれていた、この神社についての父母との思い出から「懐旧」。	易～標準
	問六	返り点 ：置き字「于」に注目。漢文の基本構文 述語(奉)・目的語(馬)・「于」・補語(芳野水分峰神)に相当する。馬を芳野水分峰神に奉る、と読む。	易
	問七	空欄補充 ：1行目に「こもりの神」とある。	標準～やや難
	問八	内容合致 ：イ・ロを間違えては困る。ハ…16行目「花のたより」の「たより」とは「機会・ついで」等の意味。基本古語である。「花見のついで」に参ろうというのは「心浅き(軽薄)」、との内容なので、ハは合致していない。	標準～やや難